

## ニシユタカ二期作栽培マニュアル

### ・作業概要

二期作のニシユタカに特徴的な栽培方法。通常の馬鈴薯とは異なり、春夏と秋冬でもやり方が違う。ちなみに、ニシユタカのほか二期作できるものはデジマ、アンデスレッド、グランドペチカなど。

### ・用意するもの

- ① 基本前作（春夏、秋冬どちらのも可）でとれたものをタネ芋にする。春夏用は 100g 以上、秋冬用は 500g 以上なら可。一応中にスが入っているものは避ける。
- ② 75cm 幅の黒マルチ（春夏のみ）。
- ③ 支柱

### ・作業手順（春夏）

- ① 宇都宮の馬鈴薯の植付時期は基本 3/20 にしているが、時季秋冬のためのタネ芋にするため休眠期間を考えて少し早い 3 月上旬に定植。定植作業 2 日前に 100g 以上のタネ芋は頂点から半分にカットして切断面を乾燥させる（かさぶたを作る）。100g としているが、タネ芋は大きければ大きいほど良いとしている。どれだけ大きくてもカットは 1 回だけ。切断面を多くして腐るリスクを上げない。また、春夏は逆さ植えのため半分がちょうどよい。
- ② ロータリーした後の畑に株間 40 で切断面が上になるよう逆さ植えする。植えるときは左手で穴を掘り、右手で 10 cm くらいの深さに埋める。条間は足で 4 歩分。植えた列はわかるように支柱を立てておく。
- ③ 植えつけを先に終わらせ、あとから黒マルチ張りをする。マルチは 75 cm 幅なので両端 15cm とり、中心が 45 cm あれば足りる。両端を仮に 20cm でとりすぎると収穫時に剥がすのが大変になるので、かえて風でめくれてしまうかもしれない 15 cm くらいがちょうどよい。
- ④ 一月以上すると芽が出てマルチを少し押し上げるので、気が付いたところからマルチを割いて芽を出す。そうしないとマルチの熱と湿気で軟白したまま最初の芽が死んでしまう。他の箇所も手で触って芽が出てきていないか確認する。触ると弾力があるので経験を積めばわかる。30 cm 間隔に植えているのでそれも参考にする。
- ⑤ 通路の草は光合成ができる程度にきれいにしておく。後半は除草が間に合わなくなるので、前半は時間を見つけてなるべく初期除草に努める。
- ⑥ 収穫は葉が枯れたら。天気を見て晴れの日午前中に行い、数時間天日干してからコンテナで保管する。成長した後であれば株元に草が生えてしまっても大丈夫。かえて雨が降ってしまった場合、水分を吸ってくれるので芋が腐りにくい。秋冬のタネ芋用として大きいもの（500g 以上）は別にしておく。秋冬の植付が終わって余った種芋は販売に回す。小芋は他の馬鈴薯とミックスにして売る。貯蔵の過程で緑化してしまったものは次の秋冬の収穫タネ芋と合わせて来年のタネ芋にする。

※このやり方は無施肥だが、肥料を使う場合はロータリーの前に施肥して混ぜておく。

・作業手順（秋冬用）

- ① 8月下旬に定植する。遅くとも9月初旬。
- ② ロータリー後、管理機で溝を切って株間30で置いていく。タネ芋（春夏の収穫物）はカットしないで500g以上の大きいものからそのまま使う。余りは販売に回す。秋冬は芋の収量・肥大が春夏に比べ劣るため、タネ芋はエネルギーをたくさん貯蔵している大きな芋を使う。植えた列は念のため支柱を立てておく。
- ③ 溝を切った片側の山（主に向かって右側から）のみ足で崩してタネ芋を隠していく。崩す山はどちらでもよい。利き足側がやりやすかったのが右からとした。
- ④ ある程度草が生えてきたら、もう片方の山を足で崩していく。そうすると余計な除草の手間がなくなる。この時点で山がなくなり畑が平らになる。
- ⑤ 芽がでてまた草が出てきたら、芽を傷つけないよう管理機で軽めに土を寄せつつ中耕する。軽めとは、管理機のスピードを速くして、高さを調整してあまり土を飛ばさないようにして走らせる。高さの調整は腕力で少し持ち上げるようにして土の飛び具合をみて調整。補助具を使っても良い。この作業を株の成長具合と草の生え具合で収穫まで2～3回行う。
- ⑥ 霜が降りだして株が枯れたら収穫開始。すぐにすべて掘り起こせなければ、芋の凍結防止のため管理機でできる限り多めに土寄せする。少しでも盛り土されると寒さ除けになり芋が傷まないため冬の間も土の中で保存できる。とはいえなるべく早い収穫を心がける。なるべく大きいものから春夏のタネ芋として残す。

※このやり方は無施肥だが、肥料を使う場合はタネ芋とタネ芋との間に一掴みくらい入れておく。

（春夏の収穫）



（タネ芋には避ける）



（秋冬の収穫）

